

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第61号

発行日：平成 26 年 5 月 1 日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

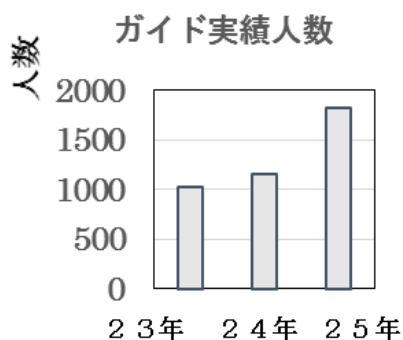
発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

ガイド要請急増 各班大忙し

NHK大河ドラマ「軍師 黒田官兵衛」の放送が始まり、“官兵衛幽閉の有岡城”を訪れる人が増えています。昨年10月26日にNHK「新兵庫史を歩く」の第25回として、“藤の花香る酒蔵の街～伊丹～”が実施、放映された頃から来客数の増加が目立つようになり、年が明けた春先から急増しています。

年度別の当会ガイド実績人数は23年度、24年度がそれぞれ1,022名、1,163名であったのに対して25年度は1,829名です。



これは23年度と24年度のガイド実績人数を平均した値の約1.7倍にあたります。

5月になるとドラマが進展して、いよいよ官兵衛が土牢(?)に幽閉される場面が放映されます。これを機に土牢目当てのガイド要請がさらに増えるものと予想されます。ガイド要請が重なった場合は他の曜日班に引き受けてもらうなど、無理のないように対応して、このガイドラッシュを乗り切りましょう。(松田 記)

新年度始動 26 年度総会開催

平成26年度総会を4月8日(火)に開催しました。会員総数60名の過半数を超える45名の出席により、総会が成立しました。議事は、25年度の活動報告、会計報告、監査報告が行われ、拍手をもってこれらの報告が承認されました。引き続き26年度の活動計画案、会計予算案、新幹事選任および一部会則の変更を承認、そのあと新入会員の自己紹介、定例報告を行って閉会しました。26年度役員および幹事は下記のとおりです。

会長 池田 利男

副会長 濱田 辰洋

〃 内田 襄 (金曜班リーダー)

会計 富永 佳代

〃 補佐 酒井 かづえ

幹事 山岸 一人 (水曜班リーダー)

〃 松田 孝雄 (木曜班リーダー)

〃 竹中 稔 (土曜班リーダー)

〃 瀧内 和之

〃 松木 直志

〃 斎藤 洋子

〃 丹野 順子

〃 中尾 由紀子

顧問 服部 浩夫

監査 柴田 博

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願い

つぎの方々が幹事を退任されました。

細川勝海、山田美智子、山元龍治、田中實、安永繁美、中山千恵子さん、どうもご苦労様でした。また安永繁美さん、初代の会長で顧問の坂根俊彦さんがご都合により退会されました。



総会会場

〈池田会長あいさつ〉

来年は会の設立20周年になります。これまでの会の動きを「起承転結」でまとめてみますと、会の設立を起として、その後10年間は会を発展させる承になります。10年から20年までは転として、どんぐり座の心の匠授業、ロマン事業への参加等の新たな発展をしました。そして20年で結に持って行きたいと思えます。会員の皆さん、お互いに知恵を出し合って、みんなで楽しくやって行きましょう。

〈社会教育課 小長谷課長あいさつ〉

平成8年4月の設立総会から19回目の総会開催、おめでとうございます。

日頃からのロマン事業、有岡城跡清掃、スカイパークの歴史ロマン体験学習支援等のご協力ありがとうございます。

さて年明け頃からガイド依頼の人数、件数とも増えております。この4、5月にはさらに増加するようですが、皆様方のご健康は大丈夫でしょうか。お身体を大切にしてください。社会教育課として出来る範囲において支援をさせていただきます。
(松田 記)



惣構えの城「有岡城」を歩こう

19回文化財ボランティア養成講座 ～市内史跡めぐり～

今年も1月28日より文化財ボランティア養成講座(市教委社会教育課主催)が開催され、「文化財に興味がある」「学んだ事を生かして、ガイドとして活動してみたい」という6名が受講されました。

3月21日(金祝)には養成講座の締めくくりである市内史跡めぐりが行われました。当日は強風でしたが、気温はまずまずの天候で、一般参加の16名の方々と共に、計31名で市内史跡めぐりに出発しました。

[今回のガイドコース]

有岡城跡→大溝筋→旧石橋家住宅→旧岡田家住宅・酒蔵→猪名野神社(鬼貫句碑・岸の砦)→伊丹緑地→西国街道・伊丹坂→伝和泉式部の墓→辻の碑→北ノロ→有岡城内堀・土塁



猪名野神社でガイド実習

私が文化財ボランティアグループに入会してはや3年が経ちます。ボランティア養成講座の市内史跡めぐりに同行するたびに、自分の初ガイドを思い出します。とにかく手元の資料から目が離せず、ドキドキでした。

今年の受講生の皆さんも、緊張しつつも事前学習で準備された内容を、簡潔に落ち着いて説明されていました。

例えば、有岡城跡の説明者は、史跡の説明に加えて、彼女自身の体験をまじえて話さ

れました。

それは彼女の小学生時代に遡ります。城跡の発掘作業が開始されるという頃です。

発掘にたずさわる作業員のおじさんが、古城跡で遊んでいた小学生の彼女に、「ここに昔なにがあったか知ってるか？」とたずねました。すぐさま「お城やろ・・・」と答えると、おじさんは「ほう、よう知ってんな。来年からこの発掘調査が始まるねんで」などと、会話を交わしたそうです。また、お子さんが通う有岡小学校の校歌(作詞・岡田利兵衛)には、「♪～古城の南 歴史のあと・・・」という歌詞があるなどのエピソードが印象的でした。



有岡城跡の石垣前で

伊丹で生まれ育った強みを活かし、過去から現代までの時空の中での「有岡城」をうまく説明されていて、勉強させて頂きました。

養成講座を修了された皆さんと、4月から文化財ボランティアとして、一緒に活動していけることを期待しています。(藤原 記)

梅の花をめでつつ



有岡城の惣構えを歩く



～阪急・阪神沿線観光あるき～

3月2日(日)、風は少し肌寒いながらも春めいた陽光を感じられる一日でした。

NHK「軍師 黒田官兵衛」が始まり、ドラマに有岡城主・荒木村重が登場するようになり、皆さんの関心も高まっているようです。

今回の「有岡城の惣構えを歩くコース」に

も参加希望が殺到し、定員をはるかに超える申し込みがありました。

観光あるき当日は、参加者69名を4グループに分けて、梅の花咲く有岡城惣構えを歩きました。

コースは、阪急伊丹駅→猪名野神社(岸の砦)→北ノロ→萬徳寺→有岡城跡→荒村寺→鶴塚砦→杜若寺→墨染寺(上臈塚砦)→三軒寺広場(解散)です。



猪名野神社境内でガイド

私は荒村寺の説明を担当し、寺の歴史などをお話ししました。説明後、参加者の方から「江戸時代に庵を建てた酒造家の木綿屋の酒は、江戸積み銘柄番付の前頭筆頭だったそうですが、番付表の横綱の銘柄は何でしたか？」というおたずねがありました。数日前に参考資料をみた時に、番付表をたまたま見たので、なんとか記憶を頼りにお答えしました。思いもよらない角度からの質問でした。

今更ですが、文化財のガイドはガイドブックを参考にし、通り一遍の説明で終わらず、その内容を裏打ちできるように勉強しておかなくてはと反省しました。ほんとに今更ですが…。

毎回、参加者の方からの感想や質問によって、どんな風にガイドをしたらいいのか考える機会をいただきます。まだまだ経験の浅い私には勉強になります。(藤原 記)



歴史会のお花見

桜の満開には少し早い3月31日(月)に歴史会のお花見会が瑞ヶ池公園であり、参加しました。天気は晴れ、気温15～16℃、風が少し強かったがまずまずのお花見日和。公園の南側ほぼ中央の七～八分咲きの桜の枝の下に陣取っての花見。話題は大河ドラマの軍師官兵衛のこと、これからの歴史会のことなどで盛り上がりました。



野点茶会

そして花見の後半は桜花の下で野点の茶会、幹事さん特製の袴を羽織った村重と官兵衛も登場し、和やかに談笑して平成の和陸も実現、横を通る人は思わぬ光景に立ち止まる人も多く、注目を浴びた花見の会でした。

歴史会は月1回の勉強会と、年に1～2回の屋外学習を開催。歴史が好きな人や歴史が苦手な人も一緒に歴史をネタに学び&遊びませんか。

(坪倉 記)

.....

ほつおんじ 発音寺の木造三面大黒天立像

一度見たら忘れられない仏様

～阪急・阪神沿線観光あるき～

4月6日(日)、時おり小雨が降り、花冷えというよりも冬に逆戻りしたような天候でした。

今回の参加者は30名、小学生のお子さんから年配の方まで、幅広い年代の参加者と共に「伊丹緑道コース」を歩きました。

[今回のコース]

阪急伊丹駅→猪名野神社→発音寺→伊丹緑道・白洲屋敷跡→伝和泉式部の墓→緑ヶ丘公園・鴻臚館→臂岡天満宮→伊丹廃寺→辻の碑→みやのまえ文化の郷→三軒寺広場

発音寺

ご住職のご好意で本堂にあげていただき、市指定文化財の「大日如来坐像」「十一面観音菩薩立像」、テレビで紹介されて以来、皆さんが拝観を熱望されている「木造三面大黒天立像」を間近で拝観することができました。座高148cm、漆塗りが施された圧倒的なフォルム。左右に毘沙門天と弁財天、正面に歯を見せて笑う「三面六臂」、その表情は、参加者皆さんの心に深く刻まれたことでしょう。



発音寺の門前で

緑ヶ丘公園

伊丹市で最も古い公園。園内には梅林(約50種・400本)が広がっています。すでに梅の季節は終わりましたが、その日は桜が見ごろでした。下池には伊丹市の国際友好都市の中国・佛山(フーシャン)市から寄贈された「亭(ちん)・賞月亭」があります。そして、昭和59年に伊丹市の迎賓館として建てられた「鴻臚(こうろ)館」は、市在住の技能功労者表彰を受けた方々の伝統的技術を結集した日本建築です。

今回は鴻臚館のお座敷と、玄関横の立礼式茶室にて、伊丹茶道協会の方に点ていただいた「有岡の碧」と銘されたお抹茶を、和菓子「春の詩」と共にいただきました。

お茶に心得がある方々は、茶道具や茶室の床のお軸や花活けの説明に耳をかたむけておられました。



鴻臚館のお座敷で一服

日常の喧騒からしばし離れて、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

お茶をいただき、しばし休息の時間を楽しんだ後、参加者は次の目的地に向かって出発しました。(藤原 記)

足の神様～桜塚古墳群～原田城跡

木曜班屋外研修

天候に恵まれた4月10日(木)、桜が散って、藤が咲く頃、木曜班の屋外研修として19名が参加、豊中市内の文化財を巡りました。服部天神宮→南天平、御獅子塚、大塚古墳→原田神社→大石塚、小石塚古墳→原田城跡(旧葉室家)→原田村

足の神様 服部天神宮

阪急服部天神駅のすぐ近く、国道176号線(能勢街道)に面している。祭神は医薬の祖神である少彦名命(すくなひこなのみこと)と菅原道真公です。また由緒によると道真公が大宰府に向う途中、この辺りで持病の脚気で歩けなくなり、少彦名命を祀る祠に祈願したところ足の痛みがなくなったと伝えられています

・・・それで道真公は伊丹の鋳物師で臂を枕に休息できたのか・・・江戸時代後期には「足の神様」として信仰を集めました。当時、脚気は原因不明の難病でした。

境内には鬼貫の句碑「賃とらで象も田をか

えず動き哉」があります。これは中国「二十四孝」の一人、舜の孝行ぶりに感動して象が田を耕すのを手伝ったというメルヘンチックな故事を詠んだものです。鬼貫に私淑していた伊丹の酒造家、梶金兵衛(曲阜)が慶応3年(1867年)に建てました。

桜塚古墳群

桜塚古墳群は、阪急宝塚線岡町駅から曾根駅間、南北約1km 東西約1.2kmの範囲に広がり、4世紀末から5世紀末の古墳時代中期にかけて形成された、北摂でも有数の古墳群です。

今回の研修の目的は、猪名川西岸の猪名野古墳群と東岸の桜塚古墳との比較です。その性格はまるで違って、桜塚古墳群の勢力は戦国集団で大和政権の軍隊として遠く朝鮮半島まで活動したようです。桜塚古墳群からは、当時貴重だった鉄製の武器やよろい、兜、馬具が多数出土しましたが、猪名野古墳群からは農具、大工道具などが多いです。また猪名野古墳群は比較的大きな古墳が距離をおいて造られているのに対し、桜塚古墳群は小さな古墳が密集して造られていて、各勢力の違いを表しています。

明治時代の絵図によると、桜塚古墳群はかつて36基の古墳があったようですが、昭和初期の区画整理事業や住宅開発により、ほとんど消滅してしまいました。現在では5基が残されているだけで、これらは国指定史跡として保護されています。



大塚古墳を背景に

阪急宝塚線より東側に位置する南天平(てんびん)、御獅子塚、大塚古墳、西側の大石塚、小石塚古墳が現存する5基です。

原田城跡

原田城跡は阪急曽根駅から北西方向へ500m、豊中台地南西端の丘陵に位置し、ここからは南西に広がる平野部を一望できます。主郭部は約45m四方の広さで、有岡城の東西およそ150m、南北200～250mの主郭と比べるとかなり小さく、「小規模城館」と呼ばれるものです。もともと原田・曽根一帯を中心に活動した土豪原田氏の居城で、現在土塁の一部が残っています。

村重の謀反に際しては信長方の付城として、巨大な堀を巡らすなど防備を強化したことが発掘調査で確認されました。原田城と有岡城は直線距離でわずか4km、猪名川、空港、阪神高速(当時はない)を挟んで対峙する2つの城郭を想像すると、歴史ファンならずともワクワクするものがあります。



旧葉室家庭園(原田城跡)でガイドを聴く

原田城跡は昭和になって住宅開発が進み昭和12年に建てられた旧葉室家住宅は平成19年に国登録文化財となり、現在土日曜日の午後に一般公開されています。今回はとくにお願いして平日に公開、ガイドをして頂きました。そのあと原田村周辺を訪れ、迷路のような「あてまげの道」を巡りました。

足の神様のお蔭で、よく歩いた1日でした
(松田 記)

芭蕉と鬼貫 田中 實

1. はじめに

芭蕉

蕉風と呼ばれる芸術性の極めて高い俳諧を確立し、俳聖として知られる。

正保元年(1644年)伊賀上野生れ、地侍松尾家次男、元禄7年(1694年)51歳で没し、大津の義仲寺に葬られた。19歳で俳諧を学び、43歳で「古池や・・・」で大開悟、「不易流行」「さび、しおり、ほそみ、かるみ」を唱えた。江戸を拠点に東北から関西にかけて広範囲に旅する。主な著作は『奥の細道』『笈の小文』『更科紀行』『猿蓑』など紀行文が多い。代表句「古池や蛙飛びこむ水の音」はあまりにも有名、弟子も多士済々。

鬼貫

後世の俳人に芭蕉と並び称された。寛文元年(1661年)伊丹生れ、酒造業上島家3男。

天文3年(1738年)78歳で没し、大坂鳳林寺に葬られた。8歳で俳諧を詠み25歳で「誠の外に俳諧なし」で大開悟。俳諧としては大坂を拠点に京、伊丹、江戸を往来。

主な著作は『独りごと』『大悟物狂』『仏兄七久留万(さとえななくるま)』など、代表句「面白さ 急には見えぬ 薄哉」。自身が奥州藤原家に連なるとの思いから仕官を繰り返したので弟子は少なく、孤高の俳人といわれた。

芭蕉と鬼貫の交流

年齢差17歳で両者が直接会った形跡はない。鬼貫は芭蕉の門人槐本之道(えもとしどう)から芭蕉のことを伝え聞き、芭蕉を意識していた。

2. 後世の俳人が芭蕉と鬼貫をどのように並び称したか

芭蕉は俳聖と呼ばれたが鬼貫は「大家にして世に伝わる句まれなり(蕪村)」と芭蕉ほどは世に知られなかったが、鬼貫は芭蕉と同じく、従来の伝統的な俳諧から脱皮して誠を詠むべしと大開悟に至ったことから、その数は

少ないが後世の俳人が2人を並び称した。

(1)炭太祇(たんたいぎ)

与謝野蕪村と親交のあった明和俳壇の中心俳人。『鬼貫句選』を編み、その序において次のように述べている。「道にたどりふかき翁あり。その行くや、たかきより飛び、ひくきより躍り出ず。峻(しゅん)にたち、ほそきをつたふ。おにつらといふ。・・・わが芭蕉翁にこの翁を東西に左右し、延宝より享保に至るこの道の隆世をてらしみて、・・・はいかいの幸大いならんかし。

(2)松木淡々(たんたん)

榎本其角門下の江戸中期の俳人。京・大坂の俳壇で活躍。淡々の遺文『奇説つれづれ草紙』で「鬼貫は“はせを翁”と同位の俳諧ながら、迎(とても)初心教わるの句作あらず

其のころ伊丹流とて行ぜしも、今は誰あってこの風潮の発句をいたす人もあらねば、是今を以て考えるときは同位なりがたし」と述べている。後部分は鬼貫を伊丹流と錯想しているが・・・。

(3)李原・桃貫

山本李原が編んだ鬼貫七周忌追悼集『俳諧むなくるま』の桃貫の跋文に「芭蕉は修得の上手なり、鬼貫は生得の上手也と世を挙げてもてはやし・・・」と並べて賛仰している。

(4)与謝蕪村

鬼貫を高く評価して世に紹介したのが天明俳諧の中興の祖、蕪村である。

黒柳召波の『春泥句集』序で其角、嵐雪、素堂、鬼貫を4老に挙げている。

太祇の『鬼貫句選』の蕪村の跋文で其角、嵐雪、素堂、去来、鬼貫を五子に挙げている。鬼貫を除いて芭蕉の門人・友人である。蕪村は芭蕉を別格と見なし鬼貫を芭蕉の高弟と同位に見ていた。

蕪村が描いた
『杯仙群会図』



3. 芭蕉と鬼貫が誠を説いた背景

俳諧はもともと連歌から始まり、平安～鎌倉時代に和歌の会の後に、その場の余興で詠まれた。俳諧連歌である。唐では戯れて作られる詩を俳諧といい、滑稽ともいった。古今集ではざれ歌を俳諧歌と呼び、貞門・談林の時代まで自分の体験で無く、和歌や謡曲を真似た滑稽歌であった。

芭蕉30歳代後半の貞享～元禄時代にかけてこれまでの滑稽を否定して発句の主人公は作者自身と強調する。実景・実感の句を詠み、誠(真実)を追い求めた。芭蕉は五七五の発句を重視し、一七文字で単語だけでは表せない、あるがままの情景を表現しようとした。

「古池や 蛙飛び込む 水の音」蛙の鳴き声でなく水に飛び込む音を題材にしたのが革新的とされる。

「閑けさや 岩にしみいる 蟬のこえ」騒がしい蟬の鳴き声でなく、蟬の声が一つになって岩(心)に沁み込む響きを題材にした。これらの発句はあるがままの情景をそのまま表現し、詠み手側に情景を想像させ、何かを感じさせるのである。

鬼貫 自由奔放で奇抜な発想の「伊丹風俳諧』から離れて大坂に住まい、貞享2年(25歳)の春「誠の外に俳諧なし」と大開悟に至る(『独りごと』)。芭蕉と同じく従来の和歌の物真似で滑稽を生じさせる旧来の俳諧を超え、直接自ら実感したことを自分の詞で伝えようとした。元禄5年の『俳諧高すな子集』に「俳諧の大道は言習うにもえず、句のかたち作りならうにもえず。只我が平生の気心、高天原に遊んで、雪月花のまことなるに戯れ(四季のありのままの変化に交わり)、神妙をしらば、目に見えぬ夢の浮橋、足さわずして踏むに心よき地、平々ならん。」と述べている。鬼貫が開悟した時期を鬼貫の他の著作や活動状況から元禄2～3年頃の30歳頃ではないかとの説がある。

4. 芭蕉・鬼貫以降

(1) 江戸中期に江戸俳諧中興の祖といわれた蕪村が活躍した。蕪村は俳画の創始者で、写实的で絵画的な発句を得意とした

蕪村に影響された俳人は多く、特に正岡子規の俳句革新に大きな影響を与えた。

(2) 正岡子規 明治26年子規は「連句は一貫せる秩序と統一がない」として俳諧の五七五発句部分を「俳句」と命名し「俳句は文学なり、連俳は文学に非ず」と宣言した。この後、酒宴を兼ねた座の俳諧連歌から現代の「近代俳句」へと移行した。 (完)

.....

【町の小さな文化財 第1回】

行基橋の親柱

五合橋線行基町交差点を西へ100m 行ったところ、行基町2丁目に以前、行基橋があった。用水路に御影石の石板を渡した長さ1.5m位の小さな橋である。山田伊丹線の拡幅整備に伴い、橋の役目を終えて、現在は通行の支障にならないように親柱と縁石が歩車道境界に移設されている。



行基橋の親柱

縁石の面には「大正十四年乙丑年十月下旬〇〇吉住松吉」と右書きで刻んである。

近くの市立伊丹高校の場所に大正12年、県立伊丹高等女学校が開設された。当時の地名は伊丹字行基田、学校周りは田んぼで家は一軒もなく、女学校の通学路として設置されたようだ。 (松田 記)

朗読「ごん狐」

定例会で柳沢さん



2月11日の定例会で柳沢さんが新美南吉作「ごん狐」の朗読を披露しました。柳沢さんは語り手として、どんぐり座で活躍されています。



「ごん狐」は新美南吉(にいみなんきち)の代表作で、小学校国語教科書の定番として長期にわたり掲載されており、懐かしき方もあるでしょう。

新美南吉は大正2年(1913年)生まれ、29歳で夭折した児童文学者で、短い生涯を通して数多くの童話、童謡等の作品を創作しています。 (松田 記)

.....

皆さんよろしく 新会員19期生

足立 繁

初めまして！今回「伊丹市文化財ボランティアの会」に仲間入りさせていただきます「あだちしげる」と申します。

1948年(昭和23)生まれです。生まれてからずっと、伊丹市南野に住んでいます

勤務先も伊丹市内でしたので、伊丹市から継続して1週間以上離れたことはありません。しかし、今まで積極的に伊丹市について学んだことはありませんので、退職したことや、文化財ボランティア養成講座を受講したこと、新たな出会いを求めたいことなどを機会として、もっと伊丹市を知ろうと考えています。

趣味は、「落語」です。伊丹市の「先人顕彰劇」に出演したこともあります。今後ともヨロシクお願いいたします。

山田 稔

はじめまして、この度仲間に入れて頂いた山田です。どうかよろしく申し上げます。

伊丹市民になってからやっと2ヵ月半、

まだ駅付近以外の地理は良くわかりません。養成講座に入ったのも伊丹の町を勉強する良い機会と思ったからです。

普段は主として大阪府下を中心に、小学校への出前授業や、公園などのイベントで自然観察や自然工作を提供するグループに所属して活動しています。兵庫県下ではあまり活動していませんが、毎月第三日曜に甲山森林植物園で、来園者を相手に主として植物対象のボランティアガイドをやっています

現役時代も技術畑でしたから、歴史とか文化財とかには全く縁がなく、一からのスタートになり当分は皆様の足手まといになるでしょうが、ご指導のほどよろしくお願いします。

北 由夏

私は、10年前に神戸から伊丹へ転居し、中学一年生の娘一人子育て中の母です。

娘の通っていた小学校で、PTA 役員を5年間務めていたのをきっかけに、小学校区まちづくり協議会とPTA が一緒になって、有岡城跡を中心に親子で身近な歴史に触れるような行事を行うようになりました。

その行事を通じて、文化財ボランティアの方とも知り合い、行事の参加者やスタッフに

歴史のお話をしていただいたりしていくうちに、私自身が伊丹の歴史深さに興味をもつようになりました。これを機に文化財ボランティア養成講座を受講して学んでみようと思い、受講しました。

養成講座を修了した時に、私が入会して文化財ボランティアとして、お役に立てるか不安はありましたが、無理なく楽しく自分自身が学べたらという思いと、これからもPTAや地域活動に、その学びを生かしていけたらと思い入会しました。

石田 真弓

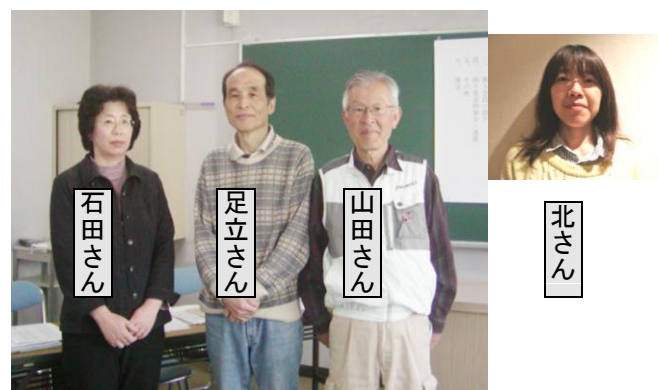
2歳のときに伊丹市に来て、有岡地区で育ちました。有岡小学校が出来た年に入学し、南中、県高と伊丹市で過ごしました。

結婚して少しの間、伊丹市を離れましたが、

子どもが生まれてからまた伊丹市有岡地区に戻ってきました。

縁あって有岡地区で地域の活動に参加しています。有岡は史跡をはじめ昔の人の生活の面影がたくさん残る歴史のまち。有岡の持つその資源に注目してここ数年、有岡歴史企画に力を入れています。いざ、子ども達に伝えようとしても親自体が歴史を知らないというありさま。有岡育ちの私も先生やまわりの大人が話してくださった断片的な事柄は覚えています。しかしそれ以外はさっぱりなので今からでも少しずつ勉強して有岡の子ども達や有岡地区を訪ねてくださる方へきちんと歴史ガイドが出来ればいいなあと夢見て入会させていただくことにしました。

ご指導よろしくお願いいたします。



活動記録（2月～4月）

定例会 ・2/11(火祝)・3/11(火)・4/8(火)

案内ガイド ・2/5(水)Aコース(歴探11期猪名川)・2/7(金)Aコース(月一ウォーク 神戸)・2/9(日)惣構(ウォーク四季 伊丹)・2/10(月)Aコース(ウォーク四季 伊丹)・2/14(金)A・Bコース(槻歩クラブ 高槻)・2/15(土)Aコース(陸上自衛隊 宝塚)・2/18(火)Aコース(里山ウォーキングクラブ 尼崎)・2/20(木)Aコース(阪神シニアカレッジ 西宮)・3/2(土)惣構(阪急阪神観光あるき)・3/8(土)Aコース(兵庫県職員会館 神戸)・Bコース(職員ふれあいセンター 神戸)・Aコー

ス(KSC 歴史探訪クラブ 神戸)Cコース(JHR 伊丹)・3/9(日)Cコース(JHR 伊丹)・

3/17(月)Bコース(仲良しトンボ会 東大阪)・
3/18(火)A・Bコース(一二散歩 大阪)・3/19
(水)Aコース(尼崎市立塚口総合センター
尼崎)・3/27(木)Aコース(ブリヂストン社友
会 大阪)・3/28(金)Aコース(ピカロ会 宝
塚)・3/30(日)Aコース(高岡オールドボーイ
加古川)・4/2(水)Aコース(歴探い会 猪名
川)・4/3(木)Aコース(武小の会 尼崎)・4/4
(金)Aコース(槻歩クラブ 高槻)Bコース(槻
歩クラブ 高槻)・4/6(日)Cコース昆陽寺(尼
崎倶楽部古寺探訪 尼崎)・Aコース(附高同
窓会 伊丹)・伊丹緑道(阪急・阪神観光ある
き)・4/9(水)Aコース(フレミライいきき学舎
宝塚)・4/12(土)Aコース(阪神シニアカレッジ
歴史 宝塚)・Bコース(阪神シニアカレッジ歴
史 宝塚)・4/18(金)Aコース(ミツワトラベル
川西)・Aコース(関西 RPの会 伊丹)・4/19
(土)A短縮(同窓会 伊丹)・4/23(水)Aコ
ース(青田日登美 吹田)・4/24(木)Aコース
(シニア自然大学5期 伊丹)・4/28(月)Aコ
ース(スタートの会)

屋外研修 ・4/10(木)桜塚古墳群めぐり

どんぐり座公演 ・3/5(水)鈴原小 ・3/13
(木)昆陽里小 心の匠授業 ・3/21(金祝)い
やしの伊丹館

歴史ロマン体験学習支援 ・2/15(土)仮面を
つくろう ・3/1(土)屏風をつくろう ・4/26
(土)振り子をつくろう

**有岡城跡
の清掃**

2/25(火)
3/25(火)
4/22(火)



今後の予定 (5月～7月)

定例会 ・5/13(火) ・6/10(火) ・7/8(火)

案内ガイド・5/3(土)Aコース(東園田町会
尼崎)・5/8(木)緑道 Aコース(いつもの会
池田)・5/9(金)Aコース(大阪狭山市熟年い
いきき 大阪)・Aコース(吹一地区公民館 吹
田)・Aコース(シニア自然大学 西宮)・5/10
(土)Aコース(神戸市シルバーカレッジ 神戸
市)・5/13(火)バラ公園(大阪活性化推進総
研 尼崎)・Aコース(PC クラブ 25 豊中)・
5/15(木)Aコース(7期歴探クラブ 神戸)・
5/16(金)Aコース(双葉南自治会)・5/17
(土)有岡城(阪急阪神観光あるき)・5/18
(日)Aコース(高岡オールドボーイ)・5/19
(月)Aコース(ラスク会 神戸)・5/21(水)Aコ
ース(なわて健康ロード)・5/22(木)岡田家
(岡山セカンドライフくらぶ 岡山)・Aコース
(三菱電機 OB 会 宝塚)・Aコース(ロイヤル
コミュニケーション倶楽部 芦屋)・5/23(金)
Aコース(MosMos 会 尼崎)・Aコース(歴史1
期会)・5/24(土)A・Bコース(ふるさとに親し
む会 柏原)・5/29(木)Aコース(うれしの友
の会 加東)・Aコース(桜台ハイツ歩会 伊
丹)・6/4(水)Aコース(大和会豊中箕面支部
豊中)・Aコース(ガイドボランティア 三木)・
6/6(金)Aコース(大阪狭山市熟年いきいき
大阪)・6/24(火)A・Bコース(歴探18の会
神戸)

屋外研修 ・7 月バス研修旅行

歴史ロマン体験学習支援 ・5/10(土)活字
印刷を体験しよう ・6/7(土)ポンポン船をつく
ろう ・7/5(土)楔形文字を活用しよう

有岡城跡の清掃

・5/27(火) ・6/24(火) ・7/22(火)9:30～

編集後期

今月号は活動記録、今後の予定とも案内ガイドの欄はビッシリ満員、ガイド要請が増えることは予想していましたが、ここまで多いとは。五月がピークなのか、その先はどうなるのかと気を揉むところです。いまさらながらマスコミの影響力の大きさには感心します。(T M)